

Ⅲ 企画展要項

企画展名 かごしま近代文学館企画展「孤高の詩人 浜田到」

趣 旨 浜田到は、鹿児島で医師として勤務する傍ら、短歌や詩を創作し、歌人、詩人として活躍しました。

16歳から短歌を作り始め、戦後、中井英夫に見いだされて雑誌「短歌」や「短歌研究」に前衛短歌を発表し、中央歌壇にその名を知らしめます。また「浜田遺太郎」のペンネームで詩を綴り、木原孝一から高い評価を得ました。

言葉を紡ぐことに「言葉と自分自身のなかを垂直に深く掘りさげてゆくことだ」という浜田は、歌壇という伝統的な組織社会から距離を置き、独りで言葉と向き合い、自己の世界を構築しました。

本展では、「孤高の歌人」と呼ばれた浜田の生涯を、彼の遺した言葉と豊富な資料によって紹介します。

会 期 2021年2月17日（水）～5月10日（月）

休館日：火曜日（2月23日、5月4日は開館）、2月24日（水）、5月6日（木）

開館時間 9時30分～18時（入館は17時30分まで）

会 場 かごしま近代文学館常設展示室2階

観覧料 大人300円（240円）、小・中学生150円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※常設展示もご覧になれます。年間パスポートもご利用になれます。

関連イベント ●ギャラリートーク

日 時 3月6日（土）、4月29日（木・祝）13：30～

場 所 企画展会場

申 込 不要 ※観覧券の購入または年間パスポートが必要です

展示構成 ①詩人 浜田到の誕生

②中央歌壇へ

③沈黙する晩期

エピローグ

主な展示資料 歌稿「硝子街」、創作ノート「坐睡」、手作り歌集「風茜」、原稿「血と樹液」、
中井英夫 浜田到宛て書簡、塚本邦雄 浜田到宛てはがき、寺山修司 浜田
到宛てはがき、雑誌「極」、雑誌「黄」ほか（予定）

問合せ かがしま近代文学館
〒892-0853 鹿児島市城山町5-1
Tel 099-226-7771 Mail kinmeru@k-kb.or.jp（代表）
担当：森山

<浜田到 略歴>はまだ いたる

1918（大正7）年～1968（昭和43）年

歌人、詩人。アメリカのロサンゼルス生まれ。4歳の時に両親の出身地である鹿児島に帰国。鹿児島県立第一中学校在学中に短歌を作り始める。旧制姫路高校を経て、旧制岡山医科大学を卒業。大学2年生時、廣瀬富子と学生結婚。戦後、鹿児島の済生会病院の内科医として勤務。1951（昭和26）年、「短歌研究」8月号の「モダニズム短歌特集」に塚本邦雄らと共に作品を発表。塚本邦雄や寺山修司らを中心とする同人誌「極」に参加。詩作品には「浜田遺太郎」のペンネームを用いた。昭和43年4月30日、往診の帰路で事故死（49歳）。没後、歌集『架橋』、詩集『浜田遺太郎詩集』が刊行される。